

レスポンス・ケア行動計画 2020年実績と2021年目標

昭和電工グループは、レスポンス・ケアについて2025年にありたい姿として以下の目標を掲げました。

- 「つくる責任、つかう責任」を強く意識したレスポンス・ケア活動を通じて、地球環境の持続可能な解決に貢献できること
- 昭和電工グループ共通の安全文化が醸成され、世界トップクラスの安全基盤が構築されていること

◎ 目標達成または順調に推移(100%)
 ○ ほぼ目標達成(80%以上)
 △ 目標未達成(80%未満)

この長期目標を達成するために、2、3年ごとの中期行動計画、ならびに年間行動計画を立てています。さらに各事業場で具体的な行動計画を作成し、レスポンス・ケアを推進しています。主な取り組みについての2020年の目標・実績・評価、および2021年の目標は以下の通りです。目標の達成に向け、今後とも取り組みを活性化していきます。

項目	2020年の方針・計画	2020年の結果・実施状況	評価	2021年の方針・計画
環境保全	<p>環境管理</p> <p>【方針】環境異常の発生無し 【計画】環境トラブルへの取り組み強化 ・環境リスクの排除 ・老朽化設備の点検・確認 【計画】生物多様性に配慮した事業活動</p> <p>地球温暖化防止対策</p> <p>【方針】エネルギー原単位の継続的改善 【計画】省エネの徹底</p> <p>【方針】 ・低炭素社会実現に向けた、GHGの低減と省エネの推進 【計画】 ・削減計画実施とさらなる削減施策の積み上げ</p> <p>産業廃棄物の削減</p> <p>【方針】 ・グループ・ゼロエミッションの継続 ・循環社会への貢献 【計画】 ・ゼロエミ定義変更(埋立量の産廃発生量比1.0%→0.5%以下) ・ゼロエミ達成事業場の拡大</p> <p>【方針】循環社会への貢献 【計画】 ・リサイクルの推進 ・廃プラスチック有効利用率1%増加</p> <p>化学物質排出量の削減</p> <p>【方針】化学物質排出量削減 【計画】 ・5t/年以上排出する化学物質及び総排出量10t/年以上の事業場の排出量低減 ・グループ化学物質総排出量18年比2%削減</p> <p>水資源対応</p> <p>【計画】 ・水資源の目標設定 ・水資源有効利用・効率的利用等の実施把握</p>	<p>・昭和電工グループ(国内)環境異常6件発生 ・重大ヒヤリ(管理不具合数)の把握と情報収集実施 ・環境トラブル想定訓練・マニュアルの見直し実施</p> <p>・緑地の適正確保、整備・維持への取り組み実施 ・地域環境への貢献活動(森林ボランティア、遊水池清掃、環境調査等への参加)</p> <p>・該当3事業のうち1事業(電力供給業)でベンチマーク達成 ・定期報告実施</p> <p>・GHG排出実績:2019年比グループ11%削減 ・エネルギー原単位の年次推移把握 ・特定主要エネルギー消費原単位2019年度実績、2020~2021年度削減計画行政報告</p> <p>・埋立処分量:単体298t→222t(2019年比-76t)、グループ385t→301t(2019年比-84t) ・ゼロエミッション:グループ埋立処分率0.035%→0.27%</p> <p>・プラスチックケミカルリサイクル生産実績:2019年比-15.0% ・廃プラスチック有効利用率:国内グループ68.7%→74.7%(2019年比+6.0%) ・リムリサイクル活動:国内グループ参加率94.4%、申込件数476件/人・年</p> <p>・日化協PRT R総排出量:単体143t→129t(2019年比-14t)、グループ500t→383t(2019年比-117t) ・有害大気汚染物質排出量:単体11t→11t(2019年比±0t)、グループ2t→2t(2019年比±0t) ・5t/年以上の排出物質:8物質、97t→109物質、85t(2018年対象:8物質中、6物質の排出量削減) ・総排出量10t/年以上の4事業場中、3事業場で総排出量削減</p> <p>・リスク棚卸によるホリクスの実施把握実施 ・CDPウォーター報告実施</p>	<p>△</p> <p>○</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>△</p>	<p>【方針】環境異常の発生無し 【計画】環境トラブルへの取り組み強化 ・環境リスクの排除 ・老朽化設備の点検・確認</p> <p>【計画】生物多様性に配慮した事業活動</p> <p>【方針】エネルギー原単位の継続的改善 【計画】省エネの徹底</p> <p>【方針】 ・低炭素社会実現に向けた、GHGの低減と省エネの推進 【計画】 ・削減計画実施とさらなる削減施策の積み上げ</p> <p>【方針】 ・グループ・ゼロエミッションの継続 ・循環社会への貢献 【計画】 ・グループ・ゼロエミッション(埋立処分率0.5%以下)の継続 ・ゼロエミ達成事業場の拡大</p> <p>【方針】循環社会への貢献 【計画】 ・リサイクルの推進 ・廃プラスチック有効利用率1%増加</p> <p>【方針】化学物質排出量削減 【計画】 ・5t/年以上排出する化学物質及び総排出量10t/年以上の事業場の排出量低減 ・グループ化学物質総排出量18年比6%削減</p> <p>【計画】 ・水資源の目標設定 ・水資源評価の実施</p>
保安防災	<p>設備安全</p> <p>【方針】 ・無事故の実現 【計画】 ・「創る安全」チェックリスト活用による再発事故防止強化 ・本質安全に対する取組み強化 ・安全管理体制の強化 ・リスクベースのリスク安全管理の仕組み導入拡大 ・保安力の一層の向上(AI、自動化、高度なリスクアセスメント等の新技術、新手法の積極的な導入など)</p>	<p>・昭和電工グループ(国内)設備事故4件発生(いずれも人的被害のないもの) ・創る安全チェックリスト内容と運用見直し ・事故発生時の現地対応及び事故原因究明と対策立案をコーポレートが支援を実施 ・事故対策進捗管理を事業所、コーポレート共同で実施 ・事故原因究明手法の標準化実施 ・リスクベースのリスクアセスメントの活用拡大 ・IoT、スマート化技術のプラントへの応用拡大</p>	<p>△</p>	<p>【方針】 ・無事故の実現 【計画】 ・「創る安全」チェックリスト活用による再発事故防止強化 ・本質安全に対する取組み強化 ・安全管理体制の強化 ・リスクベースのリスク安全管理の仕組み導入拡大 ・保安力の一層の向上(AI、自動化、高度なリスクアセスメント等の新技術、新手法の積極的な導入など)</p>
労働安全衛生	<p>労働安全</p> <p>【方針】 ・安全文化の醸成 ・各事業場休業・不労災害ゼロの達成と継続 【計画】 ・グループ従業員休業度数率 0.1以下 ・RC監査の強化による課題抽出と対策の推進 ・埋もれたリスクの掘り起こし活動継続実施 ・リスク低減のための設備の本質安全化推進 ・階層別安全教育の体系化</p>	<p>・昭和電工グループ(国内)従業員休業災害1件、不労災害7件発生 ・昭和電工グループ(国内)従業員休業災害度数率・0.08 ・労働災害多発対応として実施した「埋もれたリスク」の掘り起こし活動を継続実施 ・労働災害の分析にAMGE・技術の4要素分析・MSHEL等を積極活用し情報共有を促進 ・創る安全チェックリスト活用による危ない設備・作業のリスク低減活動継続 ・過去災害事例の活用教育等による安全態度向上の推進継続 ・3H(初めて、久しぶり、変更)の掘り起こし、「安全SS(すべきこと)としてはいけないこと」活動の全社展開によるリスクへの気付きと低減 ・発生事例の再発防止を図るために、水平展開の視点を提供</p>	<p>△</p>	<p>【方針】 ・安全文化の醸成 ・各事業場休業・不労災害ゼロの達成と継続 【計画】 ・グループ従業員休業度数率 0.1以下 ・リスクアセスメントの強化による未然防止の推進(リスクアセスメント指針の全社展開) ・発生事例の根本原因の追究と本質的対策、並びに水平展開による類似災害の防止 ・安全SS活動のより具体的な活動にブラッシュアップ ・階層別安全教育の体系化</p>
労働衛生	<p>労働衛生</p> <p>【方針】業務上疾病の発生ゼロ 【計画】 ・衛生管理体制の強化 ・作業環境・作業方法の改善継続</p>	<p>・業務上疾病の発生ゼロ ・熱中症対策の充実 ・危険性・有害性物質等取扱時の作業管理、作業環境管理、健康管理の徹底継続</p>	<p>◎</p>	<p>【方針】業務上疾病の発生ゼロ 【計画】 ・衛生管理体制の強化 ・作業環境・作業方法の改善継続</p>
健康管理	<p>健康管理</p> <p>【方針】 ・健康意識(ヘルスリテラシー)の高い社員の増加 【計画】 1)「健康保持・増進プラン2021」活動の取り組み ①運動習慣の醸成 ②こころの健康づくり ③食生活の改善 2)健康管理 ①健康管理の強化 ・受診率100%維持と医師面談・保健指導受診者の増加 ・長時間労働者面談の100%実施 ②メンタル不調者対策強化 ③ストレスチェックの適切な実施と活用による職場環境改善</p>	<p>「健康保持・増進プラン2021」活動実績 ①運動習慣の醸成 ・1日30分(6千歩)以上歩く割合把握:60.3%(グループ全体) ・運動習慣醸成に関わる情報発信 ・拠点ごとに個別施策実施 ②こころの健康づくり ・ランシア、セルフケアセミナー開催ならびにメンタルヘルス関連情報発信 ・本社は、コロナ禍の対応としてオンラインによるラインケアセミナー実施 ③食生活の改善 ・BMI 18.5以上25.0未満の割合:63.3%(2021年目標:70%以上) ・健診後の保健指導で対象者に食生活改善指導実施 2)健康管理 ①健康管理の強化 ・受診率100%受診継続 ・医師面談・保健指導受診者及び長時間労働者面談の実績:57.1% ②メンタル不調者対策強化 ・福祉産業センター事業所フォロー体制とEAP業者との連携強化策検討開始 ③ストレスチェックの適切な実施と活用による職場環境改善 ・全社での高ストレス職場は2職場発生。昨年の高ストレス職場は対策を進め改善</p>	<p>○</p>	<p>【方針】 ・健康意識(ヘルスリテラシー)の高い社員の増加 【計画】 1)「健康保持・増進プラン2021」活動の取り組み ①運動習慣の醸成 ②こころの健康づくり ③食生活の改善 2)健康管理 ①健康管理の強化 ・受診率100%維持と医師面談・保健指導受診者の増加 ・長時間労働者面談の100%実施 ②EAP業者と事業所巡回による意識調査 ③ストレスチェックの適切な実施と活用による職場環境改善</p>
化学品安全	<p>化学物質管理</p> <p>【方針】 ・化学物質管理不良ゼロ 【計画】 ①化学物質管理におけるコンプライアンスの徹底 ・国内外法規制動向、最新ガイドライン情報の収集 ②取扱い化学物質の確実な法対応実施 ・化学物質総合管理システム、製品含有化学物質管理データベースの充実 ・国内外GHS対応ラベル・SDSの改訂</p>	<p>・昭和電工グループ(国内)化学物質管理異常5件 ・2020年1月に化学物質管理を統括する専門組織として「化学品管理・評価センター」を新設 ・化学物質管理におけるコンプライアンスの徹底 ①各種情報リリースおよびデータベースを活用して法規制動向、改正情報を収集 ・化学法規制法令教育を充実、毒劇法・化学法に係る社内オンラインセミナー開催 ②国内外化学品法規制法令対応を実施 ・改正JIS Z 7252/7253(2019)準拠SDSの改訂を推進 ・プロダクトステータス・カードの導入による自主的リスク管理の実現 国内事業場での化学品リスク評価実施状況調査、改善提案を実施 化学品リスク評価における社内推進体制を構築</p>	<p>△</p>	<p>【方針】 ・化学物質管理不適合の新規発生ゼロ 【計画】 ①コンプライアンスの徹底 ・チェック機能強化と教育徹底による不適合の未然防止 ・改正JIS Z 7252/7253(2019)準拠SDSの改訂推進 2)プロダクトステータス・カードの導入による自主的リスク管理の推進 ・化学品リスク評価・管理の実施 ・ナマ材安全管理の着実な実施</p>
品質保証	<p>品質保証</p> <p>【方針】 ・製品安全及び品質再現性の確保 ・製品事故ゼロ・コンプライアンス違反ゼロ ・重大クレームゼロ・品質ロス削減 【計画】 1)リスクベースのQMSへの飛躍 2)品質再現性の確保 3)デジタル化と最新技術の活用 4)グローバル化への対応</p>	<p>①リスクマネジメントを基本とし、CX最大化・一流の品質保証実現のための規程類の全面改訂実施。各事業所に2021年展開予定 ②全事業場で工程能力品質管理活動が定着し、軽クレーム以上前年比約50%に低減 ③改ざん防止のためのトレーサビリティ確保は完了。各事業所で自動化の計画実行中。デジタルデータ活用のあるべき姿、構想を策定 ④海外拠点に対する本社品質保証室の関与度向上を図る構想を推進中。規程のグローバル適用</p>	<p>◎</p>	<p>【方針】 ・一流の品質保証・品質管理実現 ・製品安全及び品質再現性の確保 ・製品事故ゼロ・コンプライアンス違反ゼロ ・重大クレームゼロ・品質ロス削減 【計画】 1)リスクマネジメントを基本とし、CX最大化を目指すQMSへの飛躍 2)クレーム・不適合の再発防止 3)現場力強化・基盤強化 ・グローバル化への対応 ・事業場品質保証担当部署の力量向上</p>

※1 業務上疾病:労災保険法における業務上疾病。事業主の支配下にある状態において有害因子を暴露したことによって発生した症状。
 ※2 SDS(Safety Data Sheet):安全データシート。化学物質の名称、取り扱い・保管上の注意事項、応急措置などを記載した書面で、化学品の供給者から顧客に渡される資料のこと。